



Arts
Support
Kansai

アーツサポート関西 **ASK** PRESS RELEASE

2016.09.29

アーツサポート関西 「岩谷産業文楽支援寄金」記者発表

主催：公益財団法人 関西・大阪 21 世紀協会

場所：中之島プラザ 11F 第一会議室

リリースに関するお問い合わせ先：

公益財団法人 関西・大阪 21 世紀協会内 アーツサポート関西事務局 担当：大島賛都
Email: ask@osaka21.or.jp, TEL: 06-7507-2004, FAX: 06-7507-5945

「岩谷産業文楽支援寄金」(500万円)を創設。 ASKは「文楽女子」に加え、留学生や若いビジネスマンも巻き込み 「ワンコイン文楽」の輪を広げます！

アーツサポート関西(ASK)では、関西を代表する伝統芸能「人形浄瑠璃文楽」を次世代につないでいくため、平成26年から2年間にわたり、若い世代の方々が手軽に文楽を鑑賞することができる「そくだ文楽へ行こう！！ワンコインで文楽」を支援してまいりました。この「ワンコイン文楽」は、「京阪神ビルディング文楽支援寄金」からの助成金500万円(平成26-27年度の2年間)を受け、特定非営利活動法人人形浄瑠璃文楽座が行ってきた取り組みで、近畿圏の大学生等をわずかワンコイン(500円の本人負担)で国立文楽劇場に招待し、公演前に技芸員が見どころ解説を行うなどして、文楽の魅力により深く触れていただこうとするものです。この取り組みを通して、2年間でのべ約1,000人の大学生が文楽を鑑賞し、特にいわゆる「文楽女子」と呼ばれる若い女性の参加が目立ちました。

参加者からは、

- 「想像していたよりも何倍もおもしろく、深いものだったので、見終わった今、感動が止まりません」
- 「ワンコイン文楽で何度か鑑賞したことで、文楽の楽しみが形作られてきたように思います」
- 「こんな近い席で観られるとは思わなかったのでとても驚きました」
- 「人形に実際に触れて、三人で一体を操る体験をしました。かしら部分を操りましたが、片手では重く感じました」
- 「文楽に関わる仕事に就きたい」

など、参加して良かった、感動した等の多くの感謝の声が届きました。

この度、岩谷産業株式会社様より、このような成果を上げた若者への文楽普及活動が2年間で終わってしまうのは惜しい、ぜひ将来にわたってこの活動を継続させたいとさらに500万円の寄付があり、その寄付金で「岩谷産業文楽支援寄金」を設置し、同様の活動を平成28~29年度の2年間にわたって助成していくこととなりました。助成対象者についてはあらためて公募し、その結果、引き続き、NPO法人人形浄瑠璃文楽座が行う「そくだ文楽へ行こう！！ワンコインで文楽」を支援することになりました。

なお今回は、申込み資格が、国籍、学生/社会人を問わず30歳以下の方であれば誰でも申し込めるようになり、より多くの若い方々にワンコインで文楽を鑑賞していただけるようになりました。「文楽女子」に加えて、留学生や若いビジネスマンにも積極的に参加を呼掛け、広く国内外の若者たちに文楽の魅力を伝え、ひいては日本文化への理解を促進するのが今回の特徴です。

助成事業の概要「そくだ文楽へ行こう！！ワンコインで文楽 U-30」

- ◎主催者： 特定非営利活動法人 人形浄瑠璃文楽座
- ◎事業名称： 「そくだ文楽へ行こう！！ワンコインで文楽 U-30」
- ◎助成額： 500万円(アーツサポート関西「岩谷産業文楽支援寄金」よりH28~H29年度の2年間)
- ◎場所： 国立文楽劇場(大阪市中央区日本橋)
- ◎実施時期： 平成28年度：平成28年11月~平成29年1月(定員30人/回)
平成29年度：未定 ※文楽大阪公演の日程に合わせて実施予定
- ◎募集人数： 約1,000人(平成28年度500人、平成29年度500人 いずれも予定)
- ◎対象者： 近畿圏在学・在勤・在住の30歳以下の方(国籍は問わず)
- ◎参加費： 500円
- ◎内容：
 - ・ワンコイン(500円)で国立文楽劇場の文楽公演を前方座席で観劇
 - ・観劇当日開演前に文楽技芸員らによる30分のレクチャーを実施
 - ・スマートフォン等で見られる映像コンテンツを用意。事前に文楽の基礎を理解してもらう
- ◎申込方法： 特設ウェブサイトから申込み

助成事業の詳細

特定非営利活動法人 人形浄瑠璃文楽座 「そうだ、文楽に行こう！！ワンコインで文楽 U-30」

◎企画趣旨

人形浄瑠璃文楽は、17世紀末に大阪で生まれ、以来300年以上にわたって大阪の庶民に生まれ、今も大阪を拠点に活動している日本を代表する伝統芸能です。ユネスコの無形文化遺産に登録され、国内のみならず海外からも高い評価を受けています。

長い歴史と伝統の中で守り伝えられてきた文楽を、私たちは将来に向けて確実に継承していかなければなりません。そのためには、次世代を担う若い方々に文楽の魅力を知っていただき、自分たちが守るべき日本の文化として、未来に向けて、また世界に向けて受け継いでいただく必要があります。

そこで、本事業は、平成26年度から平成27年度の2年間にかけて、アーツサポート関西「京阪神ビルディング文楽支援寄金」からの助成金500万円を受け、近畿圏の大学生等を対象に、文楽の本拠地である国立文楽劇場での文楽公演へワンコイン（=500円）の本人負担で招待し、かつ観劇前に技芸員等によるミニレクチャーを行うなどして、文楽の世界により親しんでいただく事業を実施しました。その結果、2年間で、のべ約1,000人を超える若い世代の方々に文楽を鑑賞いただくことができました。

ミニレクチャーでは、文楽公演の見どころ解説だけでなく、回によっては文楽人形を実際に操作したり、文楽衣装の解説や、劇場のバックヤードツアーなどを行い、文楽の様々な魅力を伝えるほか、Youtube上に文楽をわかりやすく解説した動画コンテンツを掲載して事前にスマートフォンなどで気軽に学べるようにするなどの工夫を行いました。

この度新たに岩谷産業様からの寄付で設けられた「岩谷産業文楽支援寄金」からの助成金500万円を、平成28年度から平成29年度の2年間にわたって受けることとなり、この「ワンコイン文楽」の事業を継続していくこととなります。今回の助成であらたに1,000人に鑑賞いただくことで、開始から計2,000人の若い方々に文楽に触れていただくことを予定しています。なお、今回より対象者を、国籍を問わず、社会人等を含め30歳以下の方とし、より幅広い層の方々にご参加していただくようになりました。「文楽女子」に加えて、若いビジネスマンや留学生等にも鑑賞していただくことで、大阪が世界に誇るユネスコ無形文化財「文楽」の魅力を次世代につないでいきたいと考えています。

■対象公演：平成28年度事業（平成29年度分は別途企画予定）

2016年11月7日（月）、8日（火）、10日（木）、11日（金）、12日（土）、13日（日）、14日（月）、15日（火）、16日（水）、17日（木）、18日（金）、19日（土）、20日（日）

2017年1月13日（金）、14日（土）、15日（日）、17日（火）、18日（水）、19日（木）、20日（金）、21日（土）、22日（日）、23日（月）

※各日、第1部（11時開演）、第2部（16時開演）それぞれで申込受付（定員30人/回）

■募集人数：約500人（平成28年度分として）

■申込方法：ウェブサイトからの申込み <http://www.bunrakuza.com/onecoin/>

◎個人で申込み

年齢確認のため、下記のいずれかを当日受付で提示いただく

【運転免許証、パスポート、学生証、健康保険証、社員証など】

◎グループでの申込み（学生のみ）

5名以上でお申込ください（引率の教員は1グループにつき1名まで。参加費は学生と同額）

■その他：

- ・お申込み後、5日以内に、NPO文楽座よりご連絡します。
- ・各回とも定員は30名。
- ・上記対象公演以外でも、調整可能な日程もあります。

■ワンコイン文楽についてのお問合せ先：

NPO法人 人形浄瑠璃文楽座事務局 担当：峯田悦子

Email: office@bunrakuza.com, Tel: 06-6211-6131, Fax: 06-6211-6132

リリースに関するお問い合わせ先：

公益財団法人 関西・大阪21世紀協会内 アーツサポート関西事務局 担当：大島賛都

Email: ask@osaka21.or.jp, TEL: 06-7507-2004, FAX: 06-7507-5945

特定非営利活動法人（NPO 法人）人形浄瑠璃文楽座とは

平成 14 年、鳥越文蔵氏（早稲田大学名誉教授、元早稲田大学演劇博物館館長）を理事長に迎え「義太夫、三味線、人形の技芸を具体的に指導普及し、人形浄瑠璃の発展をはかり、わが国の文化振興に資することを目的」として、大阪府より特定非営利活動法人の認可を受け発足。現在では、文楽技芸員有志 45 名によって運営されている。平成 25 年、鳥越氏の名誉顧問就任と同時にドナルド・キーン氏（コロンビア大学名誉教授）が名誉顧問に就任。ユネスコの無形文化財である文楽の魅力をこれまで以上に多くの人々に伝えるため、日本各地の教育機関や公共施設などでの普及活動にも積極的に取り組む。特に文楽をより身近なものと感じてもらうための体験型の普及活動に力を入れている。

竹澤團七 特定非営利活動法人 人形浄瑠璃文楽座 理事長

人形浄瑠璃文楽座・三味線弾き

昭和 28 年 8 月 十代竹澤弥七に入門
 昭和 28 年 9 月 四代竹澤團二郎を名のる
 昭和 29 年 1 月 四ツ橋文楽座にて「寿式三番叟」「壺坂観音霊験記・沢市内の段」のツレで初舞台をふむ
 昭和 56 年 4 月 四代竹本津太夫の相三味線となり竹澤團七と改名
 「義士銘々伝・弥作鎌腹の段」で披露
 （昭和 62 年 9 月津太夫の死去まで相三味線をつとめる）

[近年の主な受賞]

平成 15 年 5 月 大阪府知事表彰
 平成 22 年 12 月 平成 22 年度文化庁長官表彰



桐竹勘十郎 特定非営利活動法人 人形浄瑠璃文楽座 理事

人形浄瑠璃文楽座・人形遣い

昭和 42 年 7 月 文楽協会人形部研究生となる（14 才）
 三代吉田簗助に師事、吉田簗太郎と名のる
 昭和 43 年 4 月 文楽協会技芸員となる
 初役は、大阪毎日ホールにおける「壇浦兜軍記・阿古屋琴 責の段」の水奴
 平成 15 年 4 月 大阪・国立文楽劇場において、三代桐竹勘十郎を襲名
 「絵本太功記・尼ヶ崎の段」の武智光秀で披露
 平成 15 年 5 月 東京・国立劇場において「尼ヶ崎の段」の武智光秀で
 三代桐竹勘十郎を襲名披露

[近年の主な受賞]

平成 24 年 4 月 第 31 回(平成 23 年)国立劇場文楽賞文楽大賞
 平成 24 年 12 月 平成 24 年度大阪文化賞
 平成 25 年 4 月 第 32 回(平成 24 年度)国立劇場文楽賞文楽特別賞
 平成 26 年 6 月 平成 25 年度名古屋演劇ペンクラブ賞
 平成 28 年 1 月 第 57 回毎日芸術賞（演劇・邦舞・演芸部門）



NPO 人形浄瑠璃文楽座

理事長	竹澤團七	理事	吉田和生	相談役	吉田簗助
理事	豊竹英太夫	理事	桐竹勘十郎	名誉顧問	ドナルド・キーン
理事	竹本三輪太夫	理事	吉田玉女	名誉顧問	鳥越文蔵
理事	鶴澤燕三	理事	吉田簗二郎		

